

営農情報 ～イネ縞葉枯病対策～

県西地域を中心にイネ縞葉枯病の発生が拡大しています。

発病が多くなると減収する可能性が高まります。ウイルスを媒介するヒメトビウンカの適切な防除を行い、イネ縞葉枯病の発生を抑制しましょう！

○ 移植時に育苗箱施薬剤を使用して下さい！

移植時に長期にわたって効果が持続する育苗箱施薬剤を処理することで、生育初期に水田に飛来するヒメトビウンカを防除します。初期の感染を防ぐことで被害を軽減することができます。



○ 本田防除を行いましょう！

ヒメトビウンカの本田での防除適期は、幼虫発生時期である6月中旬～下旬です。特に幼虫が増加する6月20日前後の薬剤散布が効果的です。この時期に適用のある薬剤を散布して下さい。

○ 抵抗性品種でもヒメトビウンカを防除しましょう！

飼料用品種や一部の主食用品種にはイネ縞葉枯病に抵抗性をもった品種があり、これらの品種は発病を抑えることができます。しかし、病気が出ないだけで、ウンカやウイルスを無くすわけではありません。つまり、抵抗性品種作付けほ場でウンカを防除しないと、ウンカが増殖拡散し、他のほ場での被害につながります。

イネ縞葉枯病の被害を軽減するため、地域が一体となった防除の取組をお願いいたします。

平成28年度 第10回農業学園を開催しました



3月10日、第10回農業学園を開催し、講義終了後に今年度の閉講式を開催しました。

講義では、農業経営士である石島氏から「就農から経営発展まで」という題で、農業に対する考え方や、経営発展のきっかけなどのお話をいただきました。その後、学園生が自身の経営発展の今後の展望について発表し、石島氏からアドバイスをいただきました。学園生からは「農業経営士の農業に対する考え方を聞くことができ参考になった」という声があげられました。当部門では、若手農業者の技術習得や仲間作りに向けて、来年度も農業学園を開催していきます。



カキ「太秋」安定生産に向けて



2月21日、JA常総ひかりがカキ「太秋」の栽培管理講習会を開催し、下妻の「太秋」栽培者10名が参加しました。講習会では、普及センターより平棚栽培における剪定、休眠期防除について指導しました。剪定実演の中で、生産者から予備枝の取り方や側枝更新、整枝方法について多くの質問が出され、有意義な講習会となりました。普及センターでは、今後も下妻のカキ「太秋」の生産安定に向けて支援していきます。



普及員のひとりごと ～ 梶山 康平 ～

気が付くと4月になり、入庁して1年がたっていました。初めて見るもの、聞くものばかりで、学生の時に比べ1年間がとても短かったと感じています。これから普及センターの職員として2年目になりますので、気を引き締めて、実りある1年にしたいと考えています。

皆様からのご意見・情報をお待ちしております。